

6. 小豆「夢大納言」の安定多収栽培のための播種期と栽植密度（技術）			
[要約] 「夢大納言」で、安定して高品質で大粒収量（粒径 6.1mm 以上）を得るには、県北部では 7 月下旬に栽植密度 7.4 株/m <sup>2</sup> で、県中南部では 8 月上旬に 7.4~12.1 株/m <sup>2</sup> で播種する。			
研究室名	作物研究室	連絡先	086-955-0275

## [背景・ねらい]

岡山農試で育成した小豆品種「夢大納言」について、栽培地、播種期、栽植密度が小豆の生育及び収量・品質に及ぼす影響を明らかにし、高品質で安定生産に向けた栽培技術を確認する。

## [成果の概要・特徴]

1. 早播き（7 月上中旬播き）では、標準播き（7 月下旬播き）に比べ生育量が多く倒伏や蔓化程度が大きくなった。また、莢数が増加し収量（粒径 4.9mm 以上）は増加したが百粒重は小さく、種皮はやや暗い色調（L\*、a\*、b\*の値が低下）になった（図 1）。
2. 遅播き（8 月上旬播種）では、標準播きに比べ生育量が少なく莢数が減少し収量は減少した。しかし、粒径が大きくなり大粒収量は増加し、種皮は明るい赤色（L\*、b\*の値が上昇）になった（図 1）。
3. 遅播きでは、県南部（玉野市）～北部（津山市）にかけて成熟期前に降霜があり、津山市で収量及び品質が低下した（表 1）。
4. 栽植密度は大粒収量の関係から、標準播きでは 7.4 株/m<sup>2</sup>、遅播きでは 7.4~12.1 株/m<sup>2</sup>が良いと考えられた（図 2）。

## [成果の活用面・留意点]

1. 肥沃な圃場では、過繁茂や倒伏・蔓化する可能性があるため、慣行よりやや疎植とするほか、窒素施用量を慣行より減らす。
2. 病虫害防除、雑草防除は慣行どおりとする。

[具体的データ]

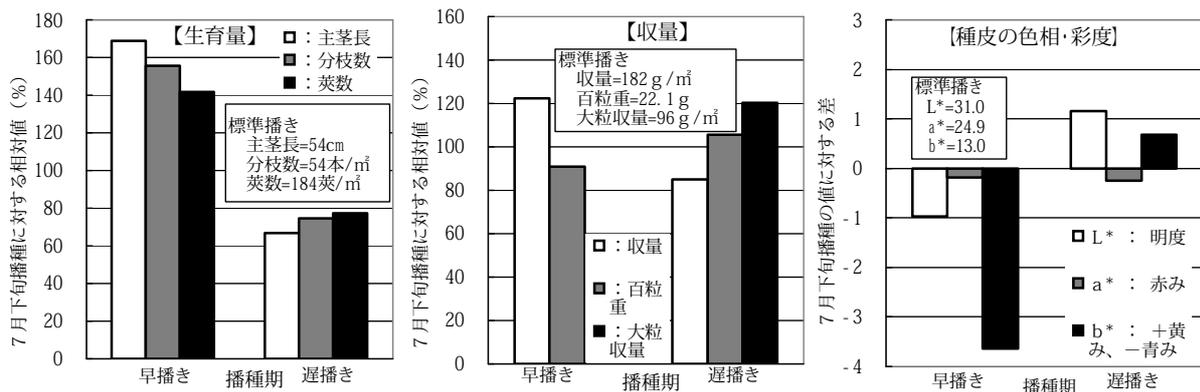


図1 播種期の違いが夢大納言の生育及び収量・品質に及ぼす影響（赤磐市平成13、14、平成16～18年）  
 注1) 7月上中旬播種の大粒収量は調査なし。  
 注2) いずれも栽植密度は7.1～7.4株/m<sup>2</sup>。大粒収量は、粒径6.1mm以上の子実。

表1 異なる播種期における夢大納言の開花期と成熟期  
 (平成13年、平成16～18年、津山市、赤磐市、玉野市)

播種期	津山市		赤磐市		玉野市	
	開花期	成熟期	開花期	成熟期	開花期	成熟期
7月上中旬 <sup>z</sup>	—	10/30	—	10/27	—	11/3
7月下旬 <sup>y</sup>	9/7	11/8*	9/7	10/31	9/8	11/3
8月上旬 <sup>y</sup>	9/18	11/17**	9/15	11/11*	9/18	11/15*

z: 7月上中旬の成熟期は、平成13、16年の平均値。  
 y: 7月下旬、8月上旬は、平成16～18年の平均値。  
 \*, \*\*: 成熟期前に降霜があったことを示し、\*\*は霜害により減収と品質低下あり。

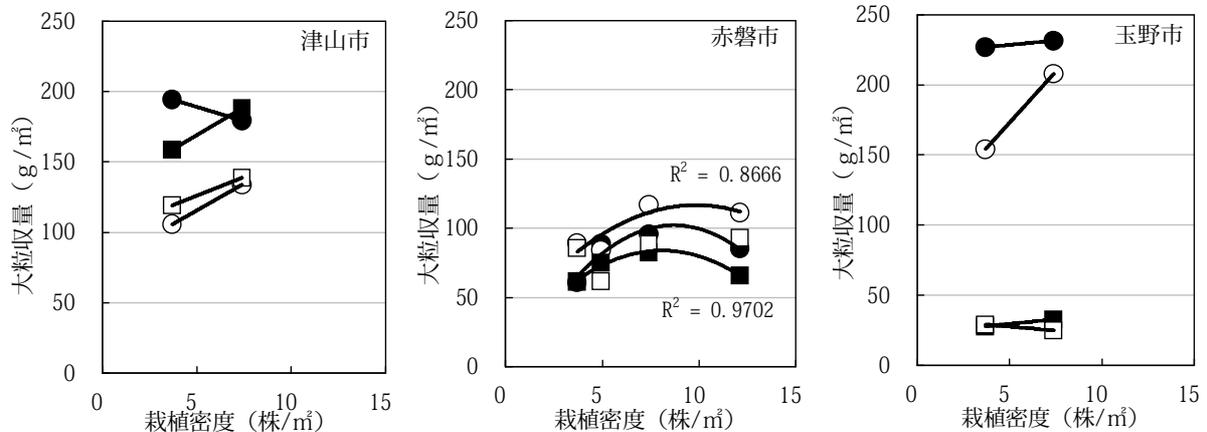


図2 異なる栽培地における栽植密度と大粒収量（粒径6.1mm以上）との関係  
 7月下旬播種 ●:平成18年、■:平成17年  
 8月上旬播種 ○:平成18年、□:平成17年

[その他]

試験研究課題・事業名：小豆有望系統「夢大納言」の安定多収栽培法の確立  
 小豆有望系統「岡系1号」の特性調査  
 小豆有望系統「岡系1号」の安定多収栽培技術の検討

予算区分：県単

研究期間：平成13、14年度、平成16～18年度

関連情報等：平成12年度試験研究主要成果「小豆優良系統岡山1号の育成」